

子育て世代のワークスタイル事例集

はじめに

教育委員会では、石川県教育委員会特定事業主行動計画を策定し、職員の仕事と育児の両立支援や女性活躍の促進など、すべての職員が健康で能力を発揮できる職場づくりに向けて取り組んでいます。

仕事と育児の両立を目指す中では、「育児をしながら部下を持つなんて自信がない…」、「男性だけど育休取得は難しいのかな…」等の悩みを抱えている方も多いのではないかと思います。

こうした中、様々な分野で活躍している先輩職員の子育て中の仕事への取り組み方や、困難に直面した際の乗り越え方などの実体験を紹介する「子育て世代のワークスタイル事例集」を作成しました。

職員の皆様におかれましては、この事例集を活用いただき、仕事と育児の両立に向けた工夫や、将来の自らのキャリア形成に参考となる要素を見つけていただければ幸いです。

目次

令和3年度

- 1 江尻 祐子 教育次長兼学校指導課長
- 2 岩木 智子 教員総合研修センター次長
- 3 谷本 明子 教職員課長補佐
- 4 松田 岳志 金沢桜丘高等学校教諭
- 5 堀田 葉子 文教会館長（元教育次長）

令和4年度

- 6 川名 俊 金沢城調査研究所主任主事
- 7 西井 陽一 野々市明倫高等学校教諭

令和5年度

- 8 崎山 寛之 金沢桜丘高等学校教諭

※所属・職は、記載当時のものです。

1 江尻 祐子 教育次長兼学校指導課長



一 略 歴 一

S60.4 金沢桜丘高等学校教諭

↑育休①、復帰、育休②、復帰

H8.4 金沢北陵高等学校教諭

H13.4 教育センター指導主事

H16.4 学校指導課指導主事

H18.4 金沢桜丘高等学校教諭

H25.4 教育センター次長

H28.4 金沢泉丘高等学校副校長

H29.4 金沢北陵高等学校長

H30.4 金沢二水高等学校長

R2.4 教育次長兼学校指導課長

家族に支えられ、 あつという間の教員生活

そもそも、このコーナーに載ることが似つかわしくないのでは…と思いました。というのも、私は明治生まれの祖父、大正生まれの祖母、昭和12年生まれの実母と同居していて、幼稚園の送迎や発熱のため引き取りに行く等の苦労はしていないからです。

昭和60年に高校の国語の教員になり、その頃は授業作りで精一杯。でも教材研究も週3回の茶道部の活動も楽しかった。いくつかの職場で無我夢中に好きな仕事をさせていただいて、あつという間に令和4年3月に定年退職を迎えようとしています。

家族との子育てを振り返って

息子が4才違いで二人います。9か月ほど育休を取り4月から職場復帰しました。産休前に、代わりの講師がいなかったから自分で探してと言われ困ったことがあります。産休に入ることで職場に迷惑がかかる、と心配でしたが、無事、講師が見つかりほっとしました。先輩の先生に「お互いさまよ」と言われ安心し、後々私も若いママ先生を励ましてきたつもりです。生まれた

息子は祖父母と母にとってヒーローで、ずいぶんかわいがってもらいました。

二人とも夜泣きが激しく、特に上の子は決まって深夜0時に泣き出し、朝方4時頃から寝始めるのが常でした。近所に飲食店もあり声を通るのが気兼ねで、家族で話し合い、ここは私が毎晩、頑張っておやすこことになりました。

我が子7人と初孫の私を始め、沢山の子どもを育てた祖母は体も丈夫で、よく息子の面倒をみてくれましたが、私が学校から帰宅すると直ぐ「お母さん戻ってきたよ。」と息子を必ず抱っこさせました。今思うと「返したよ」という合図、けじめだったと思います。このことは、同居だけに、親しき仲にも礼儀あり、で重要なことだったと後に気づきました。各々が自分の時間を少しでも持つことが大切。勿論、寝るまでみんな、息子と遊びました。

当時、うつ伏せ寝が流行っていました。ある日、座布団の上うつ伏せにし、急いでトイレから戻ると、長男が仰向けで手足をばたばた動かし喜んでいました。寝返りはまだしません。そんなことが数回ありました。祖母の仕業です。私には何も言わず隙を見てコロんとひっくり返して行くのです。うつ伏せなど危ないと思っていたのでしょう。衣服も自由度のないおくるみ状態。定期検診で指摘を受け、私は祖母

のせいにしたかったのですが、母から「みてもらっている限りは自分の我を出してはならない」とたしなめられました。

また、離乳食なるものを育児書を見て作りました。これでよし、とスプーンにすくって息子の口元に運ぶも、なめて顔を背けます。駄目か？ある日、祖母が米から重湯をつくり、わずかに味噌を入れたものを食べさせると、息子は美味しく食べました。祖母には「離乳食」という言葉はなかったかもしれません。おっぱいとの違いは、ほんの少しの塩っ気があると教えてくれました。

おおらかに、前向きに、 とにかく感謝の心掛けを大事に

母が亡くなり、やがて1年。祖母も祖父ももういません。世話になった3人の最期をみとめることは出来ました。

仕事と育児を両立する心掛けは、①おおらかな気持ちで、いろいろあるわよねえくらいに思うこと。②兎にも角にも助っ人に「ありがとう」③前向きに仕事場に向かうこと。

かつて、教育行政職に入る時、息子に「子どもがいない所で大丈夫？」と言われ驚きました。子ども達は働くママのことをしっかり見ていて分かっているのですよ。

※記載内容は、作成当時のものです。

2 岩木 智子 教員総合研修センター次長



一 略 歴 一

H2.4 米泉小学校教諭

H6.4 三馬小学校教諭

↑育休、復帰

H11.4 泉野小学校教諭

H18.4 中央小学校教諭

H21.4 北陽小学校教諭

H23.4 学校指導課指導主事

H25.4 教員指導力向上推進室主任指導主事

H26.4 学校指導課主任指導主事

H27.4 米泉小学校教頭

H29.4 押野小学校教頭

H30.4 向粟崎小学校長

R2.4 教員総合研修センター次長

学び続ける先生を応援する研修を追求して

石川県教員総合研修センターは、県として行うべき教員研修を総合的、一元的に実施している機関です。県教員育成指標に基づき、教員の資質及び指導力向上のため、様々なキャリアに応じた各種研修を企画、実施しています。

私は、折に触れ、県内の各市町の教育委員会をお訪ねしています。そこでお会いした皆様からは、協議するたびに、教員研修に対する様々な熱い想いを聞かせていただいています。

また、できるだけ各地域、各校種の研修に参加させていただいていますが受講する先生方の、「熱心に学び続ける姿」に、たくさん触れることができます。

そのような皆様の想いに叶う研修の企画はなかなか難しいのですが、センター職員とともに、学び続ける先生方を応援できるような研修のあり方を追求していくことが、今の私のやりがいになっています。

育休中は新鮮で豊かな毎日

初任から数えて2校目の小学校に勤務している時に子を授かりました。子育てに専念したいとの思いが強く、周りの理解も得られたので、当時最長であった1年間の育休を取得することにしました。

育休中は、寝て、起きて、泣いて、飲んで、おむつを替える、という日常を繰り返す中で、やがて、笑い、話し、立ち、歩くという様な、息子の成長に直接触れることができました。

また、この機会にと、ベビスイミングに通うなど、親子で楽しい時間を過ごすこともできました。このように、新鮮で豊かな毎日を送れたのも、思い切って育休を最大限取ることができたからだと感謝しています。

育休明けがせまり、息子と離れる時間が増えることへの寂しさが募っていた頃、息子は一か月程度の入院となり、育休に引き続き2か月間の介護休暇を取得しました。職場復帰が伸び、結果的に、より長く育児に没頭できたことで、前向きな気持ちで職場復帰を果たすことができました。

復帰後は、幸いにも、近くに母と義母がいましたので、いつでも、直ぐに助けを借りられたことと、勤務校の先生方の温かい支えのおかげで、仕事を続けていくことができました。

仕事と育児でバランスをとりながら

私自身は、「仕事と育児を両立しよう」などと意気込んで過ごしてきたわけではありません。仕事に疲れて帰ってきた時、ぎゅっと抱きしめることのできる息子がいてくれたことで明日への元気をもらっていました。また、子育てに悩んだ時、仕事に打ち込むことで気持ちが楽になったこともありました。私にとっては仕事と育児を往ったり来たりしながら、心のバランスをとっていたのかもしれませんが。そういう意味では、あまり大変さを感じなかった育児だったのかも知れません。

ただ、息子が中学生になった頃に、夫は単身赴任、私も帰りが遅くなりがちになり、様々なことにあまり手をかけてあげられなかったことは、ちょっとした後悔として残っています。

しかし、夜遅く、無口な年頃になった息子と二人でぼそぼそ話しながら食べた「手抜きご飯」の味は、今となってはいい思い出にもなっています。

これからも、WORKとLIFEのバランスを取りながら仕事を続けていきたいと思っています。

※記載内容は、作成当時のものです。

3 谷本 明子 教職員課長補佐



— 略 歴 —

H6.4 野町小学校教諭

H10.4 三馬小学校教諭

↑育休①、復帰

H14.4 伏見台小学校教諭

↑育休②、復帰

H24.4 金沢市教育委員会

H28.4 諸江町小学校指導教諭

H29.4 戸坂小学校主幹教諭

H31.4 教職員課主任管理主事

R3.4 教職員課長補佐

思いがけない行政への異動

私は小学校の教員として務めておりましたが、県教育委員会教職員課に異動となり、現在は小中グループの補佐を務めさせていただいています。

ここでは、

- ・小中学校教職員の任免、服務等人事に関すること
- ・小中学校の管理運営に関すること
- ・小中学校の学級編制や教職員定数に関すること
- ・小中学校の講師の任用に関すること
- ・教職員の採用選考に関すること

等についての業務があり、教育事務所と情報共有等連携を図りながら、一人一人の先生が輝き、各学校現場が組織の力を発揮できるようフォローしています。

気苦労の多い部分もありますが、大事な役目と捉え、仲間に支えてもらいながら、日々奮闘しているところです。

同僚、子ども達、保護者に感謝

私には2人の息子がいますが、どちらの時も産前休暇に入るときは学級担任をしていました。

学校では、産育休をとりやすい雰囲気があります。「あなたが、また、次の若い人の分をしてあげればいいのよ。」先輩の先生はそう言って、様々な面で配慮してくれました。

しかし、私には担任をしている子ども達や保護者に迷惑をかけるという思いがありました。授業参観後の学級懇談会でどのように話をするか、とても緊張したものです。懇談会では、休暇に入るまで精一杯一人一人の子ども達と関わっていくことを伝えました。保護者からは「子ども達は、もう知っているのですか?」「次の方は?」などの声もありましたが、受け止めてくださいました。

子ども達とお別れの日、お家の方が一人一人の写真入りメッセージの文集を作成し、プレゼントしてくれました。職場の同僚、子ども達、先輩ママである保護者に支えられ産休・育休に入りました。

祖父母の協力、ありのままの姿を

育休後は、仕事、保育園の送り迎え、同居、全てが新しいことからのスタートでした。

泣きわめく我が子を預けて保育園を出て、学校に着くのは始業時刻ギリギリ。学年の先生とは、教室まで歩きながら打合せを行いました。

クラスの子供達には、息子のこと、私の失敗談なども話しました。「お母さん」としての私を受け止めてくれたのか、息子の熱で遅れると心配してくれたり、育てているカブトムシをくれたり…。ここでも子ども達に支えられました。

子ども達の下校後、教材研究、会議など様々なことがあります。限られた時間で何を優先するかいつも考えていました。考えながら運転をしていて、保育園に寄るのを忘れてしまったことも…。そんなバタバタした毎日でしたが、平日の食事は祖父母が担当してくれ、助けられました。

息子が小学生になるにつれ、保護者が同世代へ、そして自分が先輩になっていきました。教師であり、親であり、悩みながら過ごしている姿をありのままに見せてきたように思います。

※記載内容は、作成当時のものです。

4 松田 岳志 金沢桜丘高等学校教諭



— 略 歴 —

H23.4 小松商業高等学校教諭

H28.4 津幡高等学校教諭

↑育休①、復帰、育休②、復帰

R3.4 金沢桜丘高等学校教諭

育児を通して「教員」という仕事の やりがいと責任を再認識

4月から金沢桜丘高等学校に赴任し、1年生のホーム担任と国語科の授業を担当しています。

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りとはいかないことばかりです。とはいえ、生徒たちにとってはかけがえのない高校生活ですので、学力の向上のための授業はもちろんのこと、学校行事を通しての人間関係づくりや思い出づくりができる限り実施できるようにしたいと思い、生徒の健康観察や感染症対策に十分気を配りながら日々試行錯誤しています。

教員の仕事をされていてやりがいを感じるのとはなんと言っても生徒の変化や成長を目の当たりにしたときですが、育休復帰後はそれをより強く実感できるようになりました。

また、育児を通して生徒一人ひとりには保護者の方々がこれまで並々ならぬ苦勞をされて大切に育ててきた存在だということを再認識することができ、その人生の大切な時期に関わる教員という仕事の責任も改めて確認できました。

育休の取得は早くから決め、 早くから相談

育休の取得については結婚前から妻と話し合っていました。

また、男性の先輩教員が育休を取得している姿を見ていましたので、現状として男性の育休取得件数が少ないということは知っていましたが、育休を取得することに対して特に抵抗はありませんでした。

育休を取得した前任校では進路指導課に所属し、国語の授業の他に生徒の就職や進学を支援する仕事を担当していました。妻の妊娠が分かった段階で学校長や教頭に育休取得の予定を伝え、代替講師の手配と育休取得前と復帰後の業務分担についての配慮をお願いしました。育休に入る一ヶ月ほど前から業務の引き継ぎの準備を行いました。

第1子出産時に2ヶ月、第2子出産時に4ヶ月の育休を取得しました。

1回目の育休では出産と新居への引っ越しが重なり、生活環境の変化と慣れない育児で夫婦共に満身創痍でしたが、2回目は慌ただしいながらも1回目の経験がありましたので、楽しい時間を過ごせたと思います。

臨機応変に夫婦で役割分担。 職場の配慮に育休取得も「大丈夫」

私たち夫婦は共働きですので、お互いの仕事の予定をスマホのアプリを使って共有するようにしています。

子どもが熱を出したときはどちらが仕事を休むか、夕食の準備はどちらがするかなど家事や育児に関する役割分担は、その時々々の忙しさに応じてできる方がやるようにしています。

職場では育休を取得したことで、復帰後なるべく定時に帰宅できるように配慮していただいたり、子どもが急に熱を出して早退することに対して理解していただいたり、上司や同僚にも協力をお願いしやすくなったと思います。

また、子育ての先輩としての助言をいただいたり、励ましていただいたりするのもありがたいです。

最近、出産を控えた同僚から育休取得について相談を受けることが何回もありました。そんな時は、自分の経験を正直に伝え、大変なこともあるけど大丈夫だよと励ますようにしています。

5 堀田 葉子 文教会館長（元教育次長）



一 略 歴 一

S58.4 羽松高等学校教諭

S61.4 寺井高等学校教諭

↑育休、復帰

H1.4 松任高等学校教諭

H8.4 金沢桜丘高等学校教諭

H20.4 教育センター指導主事

H21.4 教育センター研修課長補佐（研修専門 GL）

H22.4 教職員課長補佐（企画 GL）

H24.4 教職員課参事（県立学校管理 GL）

H26.4 金沢二水高等学校副校長

H28.4 金沢辰巳丘高等学校長

H29.4 学校指導課長

H30.4 教育次長（高校・特別支援教育担当）

R2.3 定年退職

R2.4 文教会館長

職場全体の支えあいで、「教員」という仕事を更に魅力的に

私は、高校の国語教員として37年間勤め、令和2年3月に定年退職しました。子どもが一人おり、半年ほど育休をとりました。家庭環境としては、時々単身赴任となる夫と、市内に住む実母、県内に住む義父母がいました。

小学校から大学時代の友人達の中で、60歳まで仕事を続けた女性は、教員・公務員になった数名だけでした。民間企業に比べて、教員・公務員は、子育てと仕事を両立する環境に恵まれているのは事実だと思います。

しかしながら両立が大変なのは、育児だけではなくありません。個人の健康問題、親の介護も大問題で、男女を問いません。人生のいろいろなステージで、ピンチを切り抜けていくには、制度の充実はもちろんですが、職場全体で支え合っていくことが不可欠です。そんな環境がさらに整っていけば、「教員」という仕事は、男性にとっても女性にとってもますます魅力的な仕事になるのではないのでしょうか。

家族などの協力を得ながらも子育て中は奮闘の日々

昭和62年8月に男児を出産し、昭和63年3月まで育休を取りました。

4月の復帰に向けて保育園も決まりましたが、明日から職場復帰という夜に、息子は発熱して抵抗しました。その後はほぼ半年間、毎週のように下痢や発熱をくり返し、夫、実家の母、田舎の義父母、大学生の妹を総動員しての綱渡り生活でした。当時寺井高校に勤めていましたが、金沢から通勤して授業をするだけで精一杯でした。

一年が経つ頃から、発熱もピタリと治まって、その後は、熱を出すのも夏休み・冬休みを見計らうなど、息子も協力的になりました。

子どもが小学校に入学すると同時に保育園のはしごが外れ、放課後や夏休みの生活をどうするかで立ち往生。息子は学童クラブに入ったものの、3年生になると学童クラブへ行くのを嫌がり、やむを得ず大学生のアルバイトを雇って、3時ごろから5時ごろまで家にいてもらった時期もありました。

子育て中の工夫がその後の仕事に生きる。志を忘れず頑張る

子育て中に工夫し、自分の仕事の仕方として定着したことは、次の3点です。

①早く帰る（16:30～17:00）ために、仕事の効率化を図る

「書類は見た瞬間に書いて提出し、手元に置かない」「試験問題・通知票・指導要録等は早くから取り組み、必ず締め切り前に提出する」「一番に帰る勇気を持つ」

②子どもと遊ぶために家事の効率化を図る

最新の電化製品、便利な冷凍食品や宅配・お惣菜屋さんを駆使しました。

③いろいろな人の手を借りる

家族、ママ友、同僚…いろいろな人に助けられました。お返しは、将来、次の世代の人たちにすると決心し、ささやかではありますが実行したつもりです。

子育て中の方々には、「何とか今日をしのぐ」だけでなく、「将来あんな先生になりたい、こんな仕事もしたい」という「志」を忘れず、頑張るって欲しいと思います。

※記載内容は、作成当時のものです。

6 川名 俊 金沢城調査研究所主任主事



一 略 歴 一

H28.4 文化財課主任主事

H29.4 埋蔵文化財センター主任主事

H31.4 金沢城調査研究所主任主事

↑ 育休、復帰、育短、復帰

金沢城に関する新発見を 間近で見ることができる日々

私が勤務する金沢城調査研究所は、国史跡である金沢城跡に関する調査・研究およびその普及を行う機関です。私の主な業務は、城内の石垣の改修や二ノ丸御殿復元のための発掘調査です。

金沢城に関しては江戸時代の文献や絵図が豊富に残っており、それからわかることも多いのですが、実際に発掘してみても初めてわかることもたくさんあります。たとえば、石垣がどのように構築されたのかや建物の柱の建て方、どのようなものが使われていたのかなどは発掘調査をしないと詳細を知ることはいけません。

このように金沢城に関する新発見を日々間近で見ることができるのが、この仕事をする上で一番の醍醐味です。

職場の配慮がありながらも 仕事と育児の両立に悩むことも

今回の出産に際し、元々発掘調査が始まる生後2ヶ月まで育児休業を取得する予定でしたが、管理職の勧めで出産補助休暇や育児参加休暇といった有給休暇も活用した結果、計28日間となりまして。また育休明けに1ヶ月間育児短時間(半日)で勤務し、その後は3ヶ月間育児時間を取得しました。

育休中は、想像以上の愛しさと慌ただしさで毎日が目まぐるしく過ぎていきました。産前に一通りの勉強はしたつもりでしたが、母体の回復も不十分な産褥期は育児だけでなく家事をサポートすることの大切さも感じました。実際に子どもとの生活を送ると、性格や発育に個人差もあり、成長に合わせて次々と課題が出てくることを実感しました。

職場復帰をしてからは、例年どおり発掘調査の業務に従事しましたが、育児時間を取得している間は、現場終了後の業務については免除してもらっていましたが、それでも仕事と育児の両立に悩むことが増えました。発掘調査の現場は、状況が頻繁に変わるため、ともかくそれについていくのが大変でした。寝不足と疲れで頭が回らないことも多く、要領よくこなせない自分に自信を無くすこともありました。

職場での業務の共有を心掛け、 休暇・休日を上手く活用

仕事の面では、時短勤務中は現場の状況が把握できるよう自分が帰った後に行った作業のメモを作ってもらっていました。また自分が一人で担当する業務についても、現場内で共有することで、いつ自分が抜けても大丈夫なように心掛けました。また、職場の子育て経験者の方からお話を聞いたり気にかけていただいたこともとても心強かったです。今後育休を取る仲間ができた時にサポートできるよう仕事も家事もスキルアップしていきたいと思っています。

育児面では、夫婦ともに疲れが徐々に積み重なっていくので、年休や育児時間をうまく活用し、子どもと一緒に穏やかに生活していくことを心掛けています。休日は上手く息抜きの時間を作ることも大事にしています。そうすることで、週明けのコンディションを整えることができました。

※記載内容は、作成当時のものです。

7 西井 陽一 野々市明倫高等学校教諭



一 略 歴 一

H23.4 小松商業高等学校教諭

H27.4 野々市明倫高等学校教諭

↑ 育休、復帰

生徒とともに成長

私は、野々市明倫高校で3年生の担任をし、成績等のデータを分析しながら全体指導や面談を行い、進路実現に向けて生徒一人ひとりの意欲と可能性を引き出そうと取り組んでいます。昨年度も3年生の担任をしましたが、この仕事のやりがいは、進路決定を通して人間として大きく成長する生徒の様子を見ることができることです。真っすぐな目でひたむきに頑張る生徒の姿を見ると、担任としてなんとかよい思いをさせてあげたいと思います。

また、理科の教員として、2・3年生の生物の授業を担当しています。この仕事の魅力は「自由」があるところです。教える内容は決まっていますが、教え方は自分のアイデアと工夫次第で無限にあります。目の前の生徒に力をつけさせるにはどのようにすればいいか、それを考え、実践することで、いつまでも生徒とともに成長していくことができます。そこがこの仕事のやりがいだと思います。

子育てを通して変わったこと

私には3人の娘がいますが、昨年度3人目のときに初めて育休を取得しました。一昨年度、育休取得を決めた時は、2年生の担任をしており、3年生に持ち上がって最後まで指導したいという強

い思いに反して育休により仕事を中断しなければならないことに落胆していました。しかし、校長先生の配慮により、2ヶ月の育休から復帰した後、3年生の担任になり最後まで指導することができました。

育休を取得して実感したのは、子育ての大変さです。仕事をしたほうが楽だと感じました。仕事は自分で予定を立て、自分のペースでできますが、子育ては常に子供主体です。また、子育てはやって当たり前と思われがちな仕事です。これまで1人で育休を取り、子育てをしてくれた妻の大変さを実感し、妻への感謝の気持ちが増しました。

そして育休に限らず、子育てで変わったのは生徒との関わり方です。生徒一人ひとりに愛情を持って育ててくれた親がいて、その大切な子供の人生を預かっているという責任感を持つようになりました。また、生徒を指導する際も、自分の子供だったらどうするか、という視点で関わるができるようになりました。

仕事と育児の両立に向けた工夫

我が家は、妻も同じ仕事をしているため、いしかわ結婚・子育て支援財団の「育児・家事シェアシート」も活用して分担が見える化し、協力しながら家事を行っています。

仕事と育児の両立で不安だったことは、仕事の時間が限られること、突然保育園から呼び出しの電話がかかってくることなど、今までと仕事の仕方が変

わってしまうことでした。

現在、仕事をする上で意識しているのは段取りと効率化・省力化です。朝、その日にやる仕事をすべて書き出し、優先順位をつけ、すぐに終わりそうなものから片づけ、終礼の時間にはその日の仕事を終えるようにしています。さらに、1・2か月先の予定も確認しながら、計画的に仕事を進め、余裕を作ります。仕事を計画的に進めておくことで、子供の突然の事態にも対応しやすくなります。また、教員の仕事は探せばいくらでも見つかり終わりがないので、どこにエネルギーを集中させるかを見極めることも重要だと思います。「やらなければいけない仕事」は丁寧に取り組み、「やらないよりはかはやったほうがいい仕事」は削減するようにしています。担任としては、自分がいなくても大丈夫のようにルールを徹底し、クラスを安定させた上で生徒に任せることを意識しています。

その上で、私は子供の行事にはできる限り参加するようにしています。仕事はいつでもできますが、子供の今の姿は、今しか見られません。子供の行事や看護等で休む姿を生徒たちに見せることで、彼らが親になった時に子供のために仕事を休むという選択が当たり前であると考えられるようになってほしいと思っています。

※記載内容は、作成当時のものです。

8 崎山 寛之 金沢桜丘高等学校教諭



— 略 歴 —

H23.4 内灘高等学校教諭

H31.4 金沢桜丘高等学校教諭

↑ 育休、復帰、育短

生徒の伸びしろを見つけ可能性をともに模索

本校が2校目で、赴任して5年目となりました。今年度は、2年生の数学の授業を担当しています。授業を通して「わかることの喜び、学ぶことの楽しさ」を感じられるように、また生徒の数学的な問いが連鎖的に続き、授業後にも生徒が学びの余韻を味わえるような雰囲気づくりを心掛けています。学力を伸ばすために、生徒の伸びしろを見つけ可能性をともに模索していくことはとてもやりがいがあります。言葉かけ一つで生徒の行動が変わるので、生徒とともに歩みながら、いちサポーターとして近くで成長を促しながら見守れることが教師の醍醐味の一つだと思います。

また進路指導課専任として業務を担当しています。3年生に対しては主に大学入学共通テストに関わる業務、2年生に対しては担任をサポートする進路全般の指導、また新課程入試に関わる準備などに取り組んでいます。

時間をかけて話し合い、育休取得

私には3人の息子がおり、次男と三男は双子です。長男のときにも育休について話はしていましたが、当時は妻だけが取得しました。次男と三男が生まれた前後でも、妻は実家で過ごし

父母の協力があつたので育休はとりませんでした。また、当時は担任として学年を持ち上がったことで、生徒への思い入れが強くなり、3年生の担任として最後まで成長を見届けたいと思う気持ちや進路指導について学びたいという気持ちがありました。しかし、そのために圧倒的に大変だったのは妻の方でした。当時幼稚園に通う長男の面倒も見ながら、授乳・おむつ替え・寝かしつけ・夜泣きなどを双子それぞれに対応しながら、家事にも追われていたと思います。時間をかけて話し合い、妻の仕事復帰のタイミングで、年度初めの約2か月の育休と、その後年度末まで育児短時間勤務を取得することにしました。出産時から学校長には育休について相談しており、この勤務形態をとることを、前年度の夏に伝えました。

育休中に感じたのは、子育て・家事の大変さと時間の流れの速さでした。正直なところ最初は自分の時間も少しとれるかなと思っていましたが、あっという間に一日が過ぎることを実感しました。同時に、この生活を長男の時と合わせて5年間近く過ごしてきた妻には感謝の思いがいっそう強くなりました。

育児短時間勤務では、9：30～15：10までの勤務を選択しました。普段は祖父母に頼れず自分たちで生活していくために、小学校に通う長男の見送りとお迎え、次男と三男の幼稚園への送迎などあらゆることを考えて、この勤務形態にしました。最初は慌ただしかったのですが、少しずつこの生

活に慣れ、子どもたちと楽しく過ごすことができています。

「がんばりすぎないで楽しむ」

仕事面では、時間がより限られた中で業務をこなすために、仕事の全体像を俯瞰しながら優先順位と重要度を確認して行動するようにしています。これはこの勤務形態でなくても大切だと感じています。また、朝礼や職員会議に出席できないことが多いので、情報をもらさないよう周囲の同僚に連絡事項を毎日聞くようにしています。

育児面では、妻とお互いの予定を確認しながら、臨機応変に役割を分担しています。仕事もそうですが、「がんばりすぎないで楽しむ」ことを意識して取り組むようにしています。掃除機をかけているときには、(おそらく)吸い込まれないように息子たちは私から逃げないように楽しんでいます。子どもたちの朝の着替えも、私と競争するようにしてなんとか自分で着替えようとします。双子の行動はすべてそれぞれにやってきます。「2倍手がかかる」ではなく「2倍楽しむ」ぐらいの気持ちでいるように心がけています。

「仕事は誰でもできるけど、子どもの成長を見届けられるのは親しかいないよ。」以前同僚の先生からその言葉をかけていただいたことが胸に残っています。周りにいる方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも今しか経験できない日々を楽しんでいきたいと思

※記載内容は、作成当時のものです。